

因幡志

神社之部

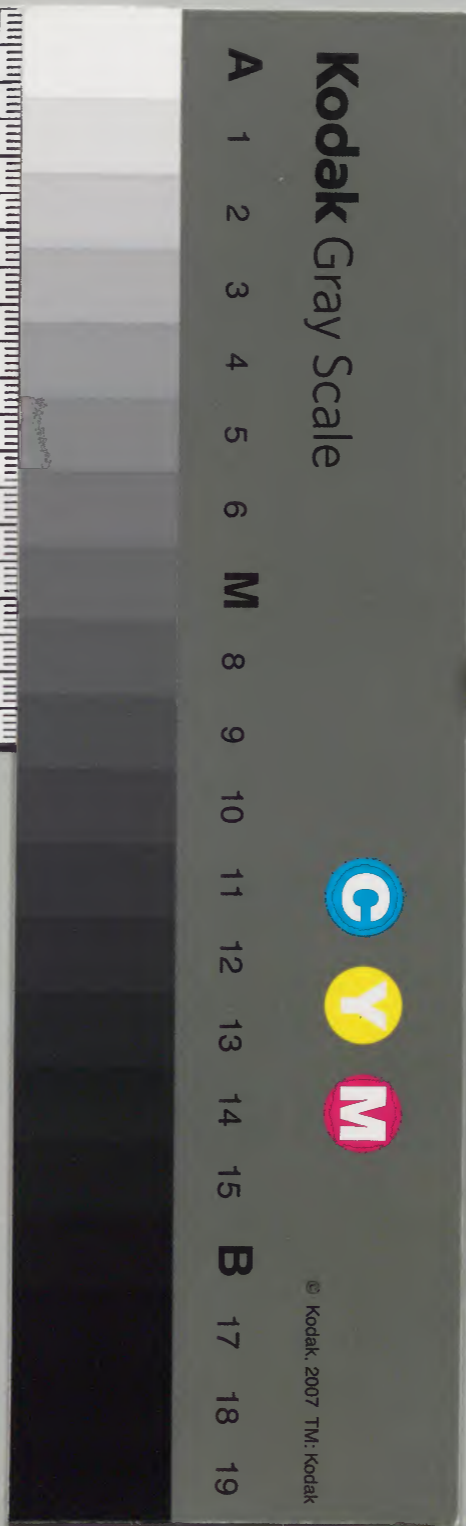
十三

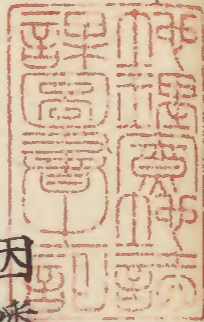
和書門			
類	號	二九二八六	
函	架	二三八	
冊		三三	

內閣文庫		
和書	號	二九二八六
函	架	三三
冊		一七五

地五三

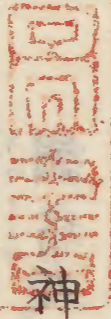
內閣文庫		
番號	和	29286
冊數	33 (14)	
函號	175	105





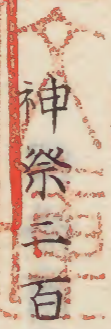
因幡志卷之十

因府侍醫安倍惟親恭庵編



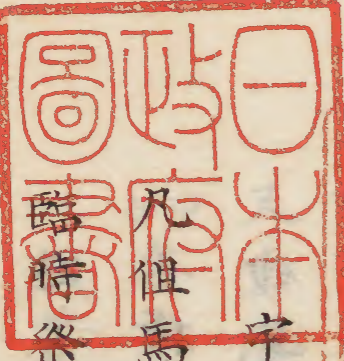
神社之部

恭惟本朝往古祭神祇其例最嚴也延喜式神祇三曰名



神祭三百八十五座中畧

宇倍神社因幡國



凡但馬因幡美作三國以神稅交易場所進之弓矢太刀者充
臨時祭料但馬因幡兩國各弓廿八張征矢五
臨時祭料十隻美作國太刀三柄征矢五十隻

詔ヲ奉テ何國ノ神ニテモ教ヲ行フナリ其祭用ノ弓

矢太刀等ヲ右三ヶ国ヨリ神稅ヲ以テ買求テ貢ナリ其
神稅トハ昔ハ國々ニ神戸郷トテ神供ノ領地アリ其
處ノ神宮ニ納貯ヘタル年貢米也當列ノ神戸郷ハ今
ノ砂見谷ニ本名佐美ニ今佐字砂代用テ音ヲ訓ニ口
轉テス十三ト云々ハ神社考ニ委シ
砂見村ヲ神坂ト云ハ神戸坂ノ略語ニテ倭名鈔亦謂
因幡國高草郡下ニ神戸トアルハ是ニ此谷ノ貢物ハ
一切神祇官ニ屬テ國司モ綺斐ナラヌ也令凡神戸ノ
調庸及田租者並充造神宮及供神調度其稅ハ一准義
倉トアルハ其事也按日本紀十代崇神天皇七年八十
萬群神ヲ祭テ仍テ大社國社及神地神戸ヲ定玉又代

垂仁天皇二十七年秋八月祠官ニ令テ兵器ヲ以テ神
幣トセントトシムルニ吉也故ニ方矢横刀ヲ以テ諸
神ノ社ニ納ラレ仍テ更ニ神地神戸ヲ定テ時ヲ以テ
祠之トアルハ國々神戸郷ヲ定又兵器ヲ以テ神祇ヲ
祭ル事此ニ與テ舊シキ例ナリ
又曰凡因幡伯耆兩國所進相掌祭料荒宮八十八合國別
四十
合四每年以神稅交易十月以前差使進上
相掌祭ハ每歲十一月上卯日ナリ是ハ今年ノ新穀ノ
初穂ヲ天神地祇ニ奠玉ヲ祭礼ナリ令云大和住吉穴
師恩智意富葛木鴨紀伊國日前神等類是也職原抄大

全ニ相掌祭ニ預ル社合七十一座ナリ神名按ルニ伊
勢山城大和槇津出雲紀伊六ヶ國欲其國々ノ神主等
各官ノ幣帛並ニ新生ノ稻ヲ受取テ祭ヲ行フトナリ
其祭料ノ荒宮イカナル箱ナルニヤ古ノ吏知カタシ
又是皆神戸郷ノ年貢米ヲ交易シテ進ルナリ
又曰凡松尾社因幡國封租穀者停收此官收社充供神料
是ハ昔當國神戸郷ノ外ニ京ノ松尾ノ神領ノ地アリ
シ也其年貢米ヲ神祇官ニ收來リケレ氏ソレヲ停止
テ今ヨリ社ニ收テ神供料ニ充ヨトナリ其封地ヲ考
ニ法美郡罵城郷松尾村是ナルベシ凡古ハ某ノ神ノ

封地ニハ某ノ神号ヲ呼テ地名トシ或地名ヲ以テ神
号トスルモ旧例ナリ今此里ヲ松尾トイヒ其祭ノ
神ヲ松尾ノ神ト称スルハ其故ナラム歎サレ氏上古
ヨリノ名ニハアラサレ古名ハ予見村ナリ今松
尾トイフハ京都松尾ノ社領ノ地トナリシ以降ノ名
ナルベシ氏神松尾大明神ハ延喜式神名帳亦謂予見
神社是ナリ是上世地名ヲ呼テ神号トスル吏證ナリ
又隣邑ヲ吉野トイフハ是モ旧松尾ト一邑ニテ予見
ノ旧地ナリ吉野トイフハ中比國峰トテ諸國ニ大和
國大峯ヲウツシテ其吏ニ役行者ヲ勸請ニ國中ノ山

伏等峰入ニテ修行ニケルトゾ當國ノ國峰ハ巨濃郡
荒金村ノ深山ニアリテ其跡今ニ顯然タリ其比當處
于見村ヨリ始テ山路ヲ開キツ、峯ワバキニ宇倍山
ノ難處ヲ經テ彼ノ國峰ニ至リトナリ其時此地ヲ和
別金峯ノ麓ニナガラヘ古名ヲ轉ニテ吉野ト号ケル
トイヘリ里入口碑ニ松尾ハ旧吉野ヨリ分タ九枝村
トイヘハ此地松尾ノ神領トナリシハ國峰ノ始ヨリ
後十九ニヤ其時代考カメシ國峯有國式又
各茨ノ部記ス
又神祇セ日踐祚大嘗祭凡物部門部詔部者左衛門府九
月上旬申官令量程參集物部左右京谷二十人門部左右

京谷二人大和國八人山城三人伊勢二人紀伊一人詔部
美濃八人丹波二人但馬七人因幡三人出雲四人淡路二
人

踐祚大嘗祭ハ天子御即位ノ後行之一代十度ハ大
神事也是ヲ大嘗會トイフ天武天皇ノ御時始也此
由日本紀ニ三上令ニハオホムベト訓セリ又毎年行
ハルヲ新嘗會ト云フ共二十一年中卯日ナリ是定
ル例也儀式注云天王即位七月ヨリ前十七ハ其年
大嘗會行ル八月以後十レハ明年行之云其年ノ八
月ニ國郡卜定ニテ悠紀國主基國ヨリ稻ノ初穂ヲ貢

ルナリ悠紀ハ齋忌ト云心ニ神齋ノ事ナリ主基ハ次
ト云文字ヲスキトヨメリ次ノ神齋ト云心ニ大嘗會
神膳ノ儀兩度アルニ依テ後ノ度ヲスキト云トナリ
禰ハナハルニ新穀ヲ十メシテ先天神地祇ニ供
シ玉ナリ本文云謂物部門部語部ハ人ノ氏ナリ皆諸
國ニ在官人ナリワレヲ左衛門府ヨリ九月ニ太政官
ニ告テ其國ニ觸テ京ニ召上ヨトナリ是十一月大
人礼ノ役ニ充ニタメニ當時因幡ニモ語部氏ノ人其々
ノ役ニ奉仕シヤルナラニ語部氏氏錄ニモヘス如
京何ナル人ナリニヤ按ニ左京神別ニ天語連トイフア
アマノカタリムラシ

リ縣犬養宿祢同祖云々
下畧若此等ヨリ流タル姓氏ニヤ
不分明

高野神社
高野神社
高野神社
高野神社
高野神社
高野神社
高野神社
高野神社
高野神社
高野神社

御湯神社
日野神社
二上神社
許野乃兵主神社
高野神社
佐弥乃兵主神社
大神神社
恩志呂神社
巨濃郡 九座 並小
式内神社目録

御湯神社
日野神社
二上神社
許野乃兵主神社
高野神社
佐弥乃兵主神社
大神神社
恩志呂神社
巨濃郡 九座 並小
式内神社目録

耳露神社

法美郡

九座

大一座
小八座

多居乃上神社二座

意上奴神社

槻折神

荒坂神社

手見神社

服部神社

美歎神社

宇倍神社

八上郡十九座

大江神社三座

都波只知上神社二座

塩野上神社二座

都波奈弥神社二座

伊蘇乃佐只神社二座

多加牟久神社二座

意非神社

賣沼神社

和多理神社

久多美神社

布留多知神社

美幣沼神社

邑美郡一座小

中臣崇健神社

高草郡七座小並

伊和神社

倭文神社

天穗日命神社

天日名鳥命神社

阿太賀都健御熊命神社

大和佐美命神社

大野見宿禰神社

氣多郡五座小並

利川神社

板井神社

加知弥神社

幡井神社

志加双神社

附録

式外神社 十七座

白兔神社 高草郡

賀露神社 同上

白兔神社 八上郡

水根神社 同上

酒賀神社 二座 法美郡

天戸間根命社 同上

犬山神社 智頭郡

虫井神社 三座 同上

鷲峰神社 三座 氣多郡

神前神社 同上

相屋神社 二座 同上

因幡神社考目録終

因部轉錄其目録

因部轉錄其目録
因部轉錄其目録
因部轉錄其目録
因部轉錄其目録
因部轉錄其目録
因部轉錄其目録
因部轉錄其目録
因部轉錄其目録
因部轉錄其目録
因部轉錄其目録

巨濃郡 九座性

恩志呂神社

蒲生郷恩智カミマアノ村ニアリ武王大明神ト称スル

是也按ニ允所載神名帳當国神社ノ名其地名ヲ呼モ

人多ク又人名或人姓名ヲ呼モノ次之今此地ヲ恩智

十云是舊人ノ姓氏也姓氏録曰恩智神主高菟命兒伊久菟命之後也神号恩

志呂ハ恩智ノ轉語歟是亦地名ヲ称スルニヤ

大御按ニ大日本山陰陸道因幡国国民部省因帳曰恩志呂

大明神寛治二年戊辰十一月依小野篁之私願自宇

佐郷遷座也云々

又按ニ篁ハ三淳和四仁明兩朝ノ時人也年号寛治

ハ三七堀河御宇ニ在テ時代不合不審

大神社

本庄郷大田村ニ祭ル緑大明神是也ト云傳フ或ハ浦

住保浦住村海濱ニ在ル荒砂大明神是也此神昔鯛

腹ニヤトリテ上給故ニ其氏子鯛ヲ不食ト云ニ神決

セサル事日久ニ按ニ日本紀曰崇神天皇夏四月庚

子朔乙卯以高橋邑活日爲大神之葺酒冬十二月丙申

朔乙卯天皇以大田田根子令祭大神云々神社考云

三輪一云大和一云大神ト然ハ大神ノ本地ハ三輪神

ニテ祭祀之人ハ大田田根子也按先代旧事本紀出雲

田根子者大己貴命九世孫而実ハ三輪神子也凡諸国郷村ノ名義ヲ考ルニ姓

氏録ニ載ル所ノ人ノ苗字ニテ凡四百三十二姓ヲ洩

タル地名十之是上古各其地ヲ領セシ人ノ姓氏ヲ呼

ヒ来ルナラハ欽此里ヲ大田ト云ヒ其神ヲ大神トイ

フヲ以テミレハ大田田根子ノ故事ニ因テ大神ヲ祭

レルモミルベカラズ今此廟地ヲ見ルニ尋常ノ構

ニ非ス郷中是ヲ一宮ト称ス又荒砂ノ神体鯛ノ腹ヨ

リ現ニ給フトモ大神ニモ三輪ニモ其録ナシ上世ノ

事貌乎ト云テ考カタシト虽トモ郷民編ク大田ノ神

ヲサニテ大神社トス因テ今姑^ラ其説ニ從フト云
佐彌乃兵主神社

本郷河崎村田土ノ中ニアリ社宇最中ニ眇然タリト

一ハ氏郷里ノ云傳ル所疑^ヒナキ氏ノ欽佐美ハ人ノ姓

是亦上古ノ地名ヲ呼^フナラム姓氏錄曰佐美朝臣者崇

之後因幡國民部省因帳曰佐弥乃兵主太神宮神貞

九十八束有余天仁二年己丑三月島羽新帝宸望奉神

貢神灵天照太神宮也云々

高野神社

在高野郷延真寺村鐘撞大明神ト称スル是ナリ此

神祠往昔ハ二上山南ノ尾高野坂ニアリ中古此地ニ

遷スト云民談記高野神社ハ岩常村ノ八幡宮トアル

ハマナカヒナルベシ

許野乃兵主神社

本郷新井村ノ山上ニアリ即兵主大明神ト称ス許野

ハ上古此地ノ名也

二上神社

高野郷岩常村鼓山二上山之麓ニアリ鼓大明神ト

号スル是也或ハ當村天神社ヲ二上神社ト云説アレ

氏非ナラム土人口碑ニ往古二上山祭神數社アリ山

巖ニ鼓明神アリ東ニ天神社在高住南ニ鐘撞明神在高住南ニ
野坂遷延真寺村高北ニ八幡宮在半腹峻峭之以上ハ
野神社是也見前
昔ヨリニ上山鎮座ノ神ナリ然ニ中古山名時氏ニ上
ノ城草創ノ時諸社皆鼓山ニ移サレ其年歴今ニ至テ
五百年ニ届トス故ニ異説アリトイヘ此地昔ヨリ
鼓宮ヲ拜シテニ上神社トス今此山ヲ鼓山トイテ社
前ノ路ヲ鼓繩ナハテ子トイフモ此神遷座以未其神号ノ因
テ生スル所ナリト是里諺ノ傳フル所尤モ疑ナキモ
ノ款大成旧事本紀第六神祇曰令鼓之神天狗狸神弟
地狗狸神以天班駒皮造天奇音鼓天強音鼓兮調之打

之是兩神者此飯井宮末社兩鼓社之神也此文岩戸
之改ニニニ想ニニ上神社ヲ鼓大明神ト号スルハ兩
鼓神ヲ祭ルニヤ若然ハ山ノ名ニ上ハニ神山ノ誤リ
ナラム款不分明トイヘ氏互見ノタメ一説トス

日野神社

大谷保大谷村海濱日比屋ト云処ニ八幡宮アリ日野
八幡ト称スル是也此神祠往古日野郷日野谷ト云処
ニ在リ浦住保吉田牧谷之田名也其神中古洪水ノ時
神廟流テ海中ニ入日比屋ノ濱頭ニ漂着ス因テ其終
其処ニ祭之ト云傳タリ於今吉田牧谷ノ土人三月十

五日ヲ祭テ日野谷休ト云モ往古ヨリノ土俗ナラハシ此神ノ

祭日ノ縁ト聞エタリ或説ニヒビ野即日野也ト云ハ推

量ノ臆説ナリ

御湯神社社傳曰祭神

蒲生郷湯村ノ東ノ山下ニアリ伊勢宮ト称スル是也

此神廟舊大野村モトオホノ在湯村東長谷ノ山麓ニアリモト今無民家

世此地ニ轉遷ス因テ大野宮トトイフ今社地ハ称勤寺

ト号スル古寺ノ廢跡ニテ花表トナリノ傍大塔ノ礎ト云傳

シ大石アリ

耳露神社カハロ

浦住保西陸上村海濱ノ山下松林ノ中ニ在リ但此神

同社ニ鎮坐セリ山方藏王権現海方耳露神社是也社

傳曰祭神啼澤女命也耳露神ト号スル事神廟當初耳

露谷在東陸上仁壽二年耳露ニアリ故ニ其地名ヲ呼

ノ神号也中古乱逆海賊来リ侵シテ民家ヲ放火ス村

民離散シテ神事執行スルニ便ナク於爰神主ヲ此里

ニ遷座ナセリ陸上ハ東西本一色モトナリ故也今其旧地

ニイマサズト蛭氏神源明ケク神号猶存ス不可疑乎

藏王祭神大抵命也
二神為兩村氏神

法美郡 九座大一
多居乃上神社 小八

廣西郷廣西村田野ノ傍ニアリ田胡大明神是ナリ此
氏子章魚ヲ不食モシクラヘハ崇ルト云傳フ類聚國

史第十六貞觀十五年七月廿八日庚寅因幡國宇倍神
進階次曰從五位上多神正五位下ヲ授トアリ當社ノ

事十ルヘニ疑ハ多ノ字以下脱スルナラニ
意上奴神社

津野井郷香取村意上山ニアリ相傳テ号意上神社其
社地谷深ニテ路羊腸ヲ踏テ入事十余町林木四時翁

辭タリ上古ノ勝地疑ヘカラス

按ニ當社神号延喜式神名帳脇假名意上ニ作ハ後
人訛謬ニ意ハ漢音ニ本朝上古神名等漢音ヲ用ル

例未聞之和音ハ於ニ意保止命意富伊我都牟類也
即祭神靈ニ猶ハ東郡若櫻郷屋堂羅村意非神社

下ニ詳ナリ
槻折神社
中郷生山村ニアリ其神趾紛乱ナク槻折大明神ト

荒坂神社

徧郡中ヲ檢考スルニ其処不可知於是後人邑美郡濱
坂村ヲサシテ是法美郡荒坂ノ古地也ト云テ其祭ル
所ノ大多羅大明神ヲ稱シテ荒坂神トス是鹵莽ト謂
ヘシ荒坂神社ハ今巨濃郡服部庄見号塩谷矢谷村ニアリ
荒坂山王ト稱スル是也服部ハ和名鈔載之舊法美ノ
管内也中古兵乱郡縣ヲ爭ヒ奪ヒ封疆分裂シテ終ニ
今巨濃郡ニ属スル也三代実録曰貞觀五年十一月十
七日因幡国ヨリ言新羅国人五十七人來着荒坂濱頭
畧似商人是日勅給程粮放却本蕃トアルモ此地故
事也土人相傳テ今船ヲ會スルニ地アラスト虫トモ

往昔海水内ニ通シテ湊ヲナセリ時世人久遠十餘沙
漠堆積ニテ水門ヲ壅塞ス今湯山池ト号スルモノ是
其裏海ノ跡トイヘリ九州内山川江海ノアリサマ其
變易今ヲ以テ推測スヘカラス此神廟ヲ窺視ニ神光
衰窮ニテ幽眇タル小社有トモ無如ク林木自倒朽葛
藤稍ヲ纏フアリサマ幾星霜ヲ歷氏知ベカラス近傍
幣殿神樂殿燈明田油代ト云フ皆田土ノ名ニ殘リ
上古靈社タル事察スヘシ神号モ紛乱ナシ是地名ヲ
稱スル荒坂ノ神跡疑ナキモノ歎

予見神社

登儀^{トギ}郷松尾村ノ山麓ニアリ松尾大明神ト称スル是
ナリ當社往古ハ山上ニアリ其地以^テ嶮僻^{ナク}邑^ノ民^ノ行^ハ拜^スル
ニ便^{ナリ}ナリ近世相議^シテ社ヲ山下移^スズ郷村ヲ吉野ト
云吉野松尾^{モト}舊^ニ一邑^ニテ古名ヲ于見^ミ村ト云ヒ神社ノ
旧地ヲ古^コ于見^ミ山ト云フ是上世其地名ヲ呼^フノ神号疑^ハ
ハキナシ^ニ傳^ハズ^ル小^ノ村^ノ昔^ノ々^ノ其^ノ時^ノ村^ノ名^ノ自^ラ傳^ハル
服部^ハ神社^ト 今郡中ニ北神社ナシ巨濃郡服部^{アモフ}庄海土村ニ祭ル
ノ二所^ニハ幡宮^ニ是ナリ且荒坂ノ條下ニ注スル如ク服
部^ノ庄^ハ旧法美郡ニ屬スル^ニ於^テ是^ニ分明ナリ三代実

録曰貞觀十六年五月十一日授因幡國從五位下服^ハ織^ト
神從五位上^ハ 美^ミ歎^タ神社^ト 廣西^{ヒロセ}郷三谷村西ノ山下ニアリ神号武王大明神小社
ナレ^レ氏^ノ嚴^シ然^ト存^ス是^モ地^ノ名^ヲ称^ス美歎^ハ即^チ三谷ノ
仮名書三代実録曰貞觀十六年五月十一日授因幡國

從五位下美歎神從五位上
宇倍^{ウベ}神社^ト 稻葉^{イハハ}郷宮下村ノ山上ニアリ國中第一ノ大社タリ呼
テ一宮ト云フ是ナリ古來其山ヲ宇倍山ト号ス^{今記謂}
^{上野山}

是地名ヲ呼モノ也又各稻葉山山下ノ川ヲ稻葉川ト
イフハ稻葉郷ニ在ルハナリ
一宮記曰因幡一宮在法美郡祭神武内宿祢諸神記曰
孝德天皇大化四年建社又神名帳頭注載風土記曰仁
德天皇五十五年春三月武内宿祢歲三百六十餘歲當
國下向於龜金村里之谷フタツツシ双履殘隱處不知云々 按大成旧
事本紀仁德天皇七十八年冬十月大臣武内宿祢薨生
歲三百十六歲又公卿補任曰景行天皇九年己卯生仁
德天皇七十八年庚寅薨歷事六帝為時各臣壽三百十
二歲不知其終云云今按風土記說仁德五十五年當國

下向隱所不知ト云ハ大臣當國ニ到テ其年薨玉ニヤ
不審風土記ノ所載如此ト虽氏沼國安民數年功有ヲ
以テ國ノ宗廟一宮ト崇メ祭ルナラシク旧事本記公
卿補任等ノ說ヲ合考ルニ仁德五十五年ニ視事於當
國二十餘年ノ後七十八年ニ薨玉ナルヘシ疑ハ風土
紀所謂當國下向ノ下脫文アルヘシ壽數モ秋說アリ
日本記不記之或三百四十歲海東諸國記或三百七歲五雜
書明謝肇判作ニテ日本紀ヲ引用ス然共何力其志ヲ
日本紀大臣薨去事又其壽數不見不審
不知三代實錄曰貞觀四年五月十三日授因幡國從五
位下字倍神正五位上同年十二月廿二日授從四位下

同六年三月詔預之官社同十年閏十二月廿一日授從四位上同十三年二月廿六日授正四位下同十五年七月廿八日授正四位上同十六年三月十四日授從三位元慶二年十一月十三日授正三位之云凡當國名神位階三位ヲ授ルモノ一二社之外未有之上代ノ靈神朝廷崇敬ノ大社タル事於是赫々タリ

八上郡十九座

大江神社三座 中殿 大天穗日命 巳貴命 三穗津姬命

大江郷賊原村賊原大明神是ナリ撰社三十餘神郷中

ノ大社タルヲ以テ大江神社ト稱ス按ニ民談記寛文中記録ニ其社桂ノ彫刻曰貞治七年再興ト於其時凡三百年ナリ當國二百年前干戈荐ニ興テ往古神社横逆ニ遭テ大畧々毀レリ當社幸ニ災過ヲ免レテ希代ノ神廟ナリ其後再興今新宮ニ在スト云々氏可崇神光猶赫々トシテ古ニ不劣矣

都波フハ只知上神社二座

按ニ神名帳只ノ字ノ脇反字ニ作ルハ後人亟為誤ナリ只ハサマ只ノ字此例尤多ニ事ハ別卷ニ委ニ

散岐郷散岐村ニアリ俗呼テ市大明神ト稱スル是也

社記曰景行天皇日本武尊ヲ祭テ二座トス
按ニ日本紀景行天皇十二年冬十月到碩田國云云
以碩田國為豐後國恐非其地其畧曰則採海石榴樹
理而考之乃謂當國也別卷注之
作推為兵因簡猛卒授兵推以穿山排草襲石室土蜘蛛
而破于稻葉川上悉殺其黨血流至蹠故時人其作海石
榴推之處海石榴市亦血流之處曰血田也
下略血田在法美郡
稻葉川忍土俗神号都波只知海石榴市以仮名書即
曰計天年河原
地名ヲ稱スル也其時ノ功ヲ推崇ニ祭テ神社トセ
十ルヘシ今其時ヲ去事凡千七百年其旧趾猶明也鄙
民其故實ヲ不知ト蚕氏神名市ノ字ヲ不失殊勝ト謂

鹽野上神社 二座

大江郷塩上村ニアリ即塩上大明神ト稱ス其遺蹤紛
乱無ニ社傳曰祭神二座彦火ト出見尊塩土老翁命
彦命別也按之此里ヲ塩野上ト号スルハ塩土老翁
之名ニ拠ルニヤ
都波奈弥神社 二座
散岐郷和奈見村ニ祭ル所ノ牛頭天王社是ナリト云
傳タリ按ニ今此地ヲ和奈見ト云ハ都波奈弥ノ上略
即地名ヲ呼モノナラニ社傳ニ祭神素戔嗚尊稻田姫

ヲ鎮齋シテ二座トスト云
伊蘓乃佐只神社

今郡中ニ此神社ナシ八東郡四分保安井村ニアル

借ノ浅崎大明神是ナリト云傳フ八上八東曰一郡ナリ

中古分裂シテ二郡トナル故ニ八上十九座ノ内八東

ニアルモノ又多シ且今神号浅崎ハ此神上古此地ノ

浅崎今為田土宗土人ノ瀬ヨリ現ニ玉ノ故ノ名也ト

云リ按テニ伊蘓乃佐只ハ磯之崎也浅崎ト義同シ上

世地名ヲ呼モノ疑ナシ文徳実録曰仁壽元年冬十月

戊申因幡國大志保濃郡波奈廣伊蘓佐伎都波只等五

神並授從五位下云々 按ニ大志保濃ハ大江塩野ニ

社ナルヘシ大下ニ誤テ江字ヲ脱スル力下ノ五神ノ

文ニ批テ見ヘシ都波奈廣ノ廣字ハ弥之字ノ誤ナラ

ニ都波只ハ只下ニ知字ヲ脱ス以上五神也

多加年久神社

曳田郷本角村ノ山上ニアル氏神聖大明神是ナリト

云傳タリ其社地ヲ窺ヒ視ニ古地ニ非ス土人口碑曰

當社ノ轉遷往古ヨリ至今三度也其初ハ在高尾山本

鹿野兩村其花表ノ跡ヲ年久呂女田ト云在本角下十

野中井中比遷座之地ヲ古宮ト云リ今ノ社地ハ近世

元祿ノ比鎮祭之想ニ山ヲ高尾ト云田ヲ年久呂女ト
云ハ多加年久ノ古地歟按ニ多加年久ハ高向ノ仮名
書ニテ人ノ姓氏也姓氏録高向朝臣者武内宿氏又地
祢六世孫楮子臣之後也名也然ハ上世此地ノ名ヲ呼
ノ神号疑十キモノ歟一
説同郷弓河内北村ノ祭神日月大明神ヲ其神氏云フ
多加年久神ニ座トアレハ日月二神無拠ニ非スト魚
氏享祿年中再真ノ棟札ニ只日月兩宮ト有テ多加年
久ノ事ヲ不載胡乱ナリ但別民神社巡ト称スル者本
角ノ神ヲ拜シテ多加年久神社トス故ニ今此説ニ從
フ社傳ニ祭神ニ座トモニ大己貴命ト云

意非神社

按ニ延喜式神名帳脇仮名作意非者當傳字誤乎意者
於也音通意保止命意富伊我部命類也今ハ東郡若櫻
郷屋堂羅村ニ祭レル大炊宮是也意非ハ大炊ノ仮書
ノ畧語也土俗今老宮ト称スルハ大炊ノ訓ノ訛也近
縣大炊村アリ是亦地名ヲ呼フ神号神号疑十キモノ
歟社傳云形代白羽天也里諺ニ當社當初隣邑長砂一
宮谷ニアリ武内宿祢來伐ノ時其地ヨリ矢ヲ放テ
曰此矢ノ落ル所ニ神殿ヲ遷スヘシト因テ其矢ノ着
処ニ神祠ヲ建ル今謂矢落谷在屋堂北是也其地隘陋十

ルヲ近世又此地ニ遷座セリト是上世純朴ノ一説此
説ニ拠テ考ニ屋堂羅ハ即天通ノ仮名書ナルヘシ又
大炊ハ人ノ姓ナリ其起ル処火明命四世之孫阿麻刀
祢命之後ヲ大炊刑部造ト称スオサリノミマコ姓氏録第十四左京是
大炊氏ノ始ニテ至今二千歳餘也知名鈔當郡ノ内刑
部郷アリ其地今分明ナラストイヘ氏此処ヲ大炊ト
云ナレハ大炊刑部ノ名残ニテモアルニヤ
賣沼神社
按ニ賣ノ字上ニ比ノ字有リニテ延喜式ニオトセリ
ト之工

曳田ヒケタ郷曳田村ニアリ西日天王ト称ス先代旧事本紀
及古事記等ニ載之ハ上姫之神趾是ナリ国中大小神
社多ト虫氏神書其神源ヲ明ニ記ニタルハ當社ノ外
未聞之然ニ今其本紀説ヲ矢口只郷民口談ノ異説ヲ
挙テ祠官傳來ノ事蹟トス是何ノ世ヨリ如此ナルヤ
後世神学癡ニテ赫々タル各神ノ靈跡知人ナシ豈悲
サラニヤ大成旧事本紀因幡国鷓部神社ハ上皇初代
ノ時ハ上姫大神以為出生之地住在鎮坐トアルハ當
社ノ事ナルヘシ祭祀之スルノ日於茲幾千歳ヲ列中
最初ノ神趾可崇矣

和多理神社

今八東郡四分保殿村ニアリ社傳曰祭猿田彦命
神功皇后自筑前国大渡嶋遷神主于此因称和多理神
按ニ和漢三才圖會曰和多理明神在八上郡社領三十
五石祭神猿田彦命景行天王朝祭之云々然ハ景行帝
之朝始筑前国ニ祭テ神功皇后御時遷之當國ニヤ
又按ニ和名鈔當郡ノ下ニ日理郷出タリ今近縣ニヒ
ワキト云村アリ文字ニハ日理ト書リ是此地上世日
理郷ト見タリ今日理ト訓ハ後世文字ニ拠ルノ誤十
ラニ然ハ神号和多理ハ日理ノ仮書也列中ノ神社地

名ヲ呼神号最多シ今此社説ニ拠テミルハ此地ノ
名ハ當社ノ名ヲ称スルヲ於テ今至テ千七百餘歳
其遺蹤紛乱十三崇敬スヘシ
久多美神社

岩田庄谷一木村ニアリ古趾紛乱十三日本紀景行天
皇十二年ノ條下ニ留于来田見邑權真宮室居之ト見
タレハ是ヲ来田見ノ古地疑ヘカラス若シ景行天皇
ヲ祭レル歟今九田伊大明神ト称スルハ俚民ノ訛十

布留多知神社

八東郡ニ属セル丹治比郷日理村ニ祭ル多知々々大明神是ナリト今神光衰田野ノ中叢社ニ座玉リ土人相傳云上古諸鹿村ノ山中廣留野ニ凶徒アリ不不収ト称ス刈民是力為ニ苦ミケルヲ此神斬之刈民ヲ安撫ニ玉因テ其功ヲ崇祭ニ古刀ニ振ヲ納テ神躰トス又ト然ハ神号布留多知ハ古太刀ノ仮字ナラニ按ニ太和国ニ石上布留神社アリ山田其祭ル所十握劔ナリト云若石上ノ神ヲ移シ祭ルモ知ヘカラス

美幣奴神社

是モ八東郡ニ属セル私部郷篠波村ニ所祭忌部大明神是ナリト云傳フ社傳日祭神天太玉命也ト按スルニ忌部ハ人ノ姓氏也姓氏錄即太玉ヲ以テ祖神トス神号其故ナラニ又美幣神ト称スル事日本紀神代卷天岩戸段ニ太玉命ヲシテ幣帛ヲ作シメ真榊木枝ニ懸事ニヘタリ是美幣ノ神トイフ其縁欵

邑美郡

中臣崇健神社
三戸古保久末村ニアリ岡森天王ト称スル是ナリ其

祭ル巫神廟ナシ但林木鬱茂之地ヲサシテ神居トス
郷民傳テ云此神之形孔高大也神託曰我形林梢トヒ
トシ尋常ノ小祠ニ居革ヲ獲ス社宇ヲ造ルヘカラス
ト繇之社ナシト按ニ神託ノ語神韻長高ハ和語崇健
ノ義ニ通ス又中臣ハ人之姓也津速龜命三世孫天兒
屋根命ヨリ出ツ日本紀若此命ヲ齋ルニヤ或ハ云フ隣
邑ヲ三輪ト号スルハ此神ノ社無キヲ以テ大和国大
三輪ヲ表ルスト

高草郡

七座

伊和神社

按ニ石イハノ仮書也モト石ナリシヲ延喜式イワニ
誤ルカ考ヘシヤスナカ安長保吉山村ノ境内廣キ田野ノ中ニ一ノ岩山アリ
名テ岩室ト云傍イハムロ小林ノ中ニ神祠ヲ設ク岩室大明神
ト号ス是其神趾ト云傳タリ又或説ニ味野郷下味野
村ニ岩崎ト云処アリ往生此処ニ神廟アリ中世頗廢
シテ村内願行寺ニ移之為鎮守伊波神社是也トモ云
サレ氏不分明別民徧ク石室ノ神ヲ拜シテ正迹トセ

リ姑ク其説ニ從フ
倭文神社 社領一石三斗一升七合

倭文郷倭文村ノ山上ニアリ七躰大明神ト称スル是

也社傳曰祭神大己貴命按ニ此神七名ヲ称ス一曰大國

大物主神三曰作大己貴命四葦原醜男神号七躰其故

五八十弋神六曰大國玉神七頭國玉神十ヲン倭文神社ハ地名ヲ称スル其神趾疑ヘキナシ

又按ニ大汝命七名ト云トハ後世七福神ナドヨリ好

事ノ者ノ作出シタルナリ古事ニ五名トアリ又大物

主ト云ハ三輪ニ限名ナリ

天總日命神社

大谷保福井村ノ氏神花表額ニ曰天總日命六王神社

ト記リ是其神宮ナルヘシ一説ニ南北保布勢村山王

権現ノ接社保比呂比五倫ト称スル碑碣其形代共云

リ昔社前松原西側在田土按ニ五倫宝塔或石塔皆一

類異形ニシテ梵語所謂窣堵婆ナリ是浮圖ノ説ニ出

テ本朝古来神祇ノ用トスル事アリヤ不審或記ニ

山名氏比地天神山ノ城草創ノ時卯山ヲ比叡山ニ十

ヲラヘ洛東清水寺ノ山王廿一社ヲ勸請ニテ永ク布

勢城下ノ鎮護トス其時溝口村ニ一人ノ優婆塞有テ

總拾之塔ヲ建トアリ事詳郡然ハ曰キ事ニ非ス偽説

分明也ト虽モ州民穂拾塔ヲ拜テ其神跡トス故ニ
挙テ一説トス三代実録曰貞觀九年五月二十一日
詔又以因幡国正三位天穗日命神列官社云云上世當
州神社位階授三位者無一二神外赫々タル遺蹟明カ
ナラザル事如此可悲矣
天日名鳥命神社

郡内正ニシク其名ヲ称スル神廟十ニ相傳フ大谷保大
畠村ノ一神土人天鷲宮ト云フ是也ト社傳曰本社祭
神天日名鳥命別社ニ神天穗日命天日鷲命也然ルニ
中古神廟燹火ノ災ニ遭テ皆燔滅セリ依之後代本社

一字ヲ建テ三神共ニ相殿トス於此天三祇宮トイフ
ト然レハ今天鷲ニ作ルハ三祇ト鷲ト音訓相近ヲ以テ
後入文字ヲ誤タルナラム社説尤モ分明ナリ然レニ後來
衆説卻テ其实ヲ失ニ似タルモノ或ハ天日名鳥命一
天日鷲命ト称ス鷲ト鷲ト字勢ノ似タル故天鷲神ト
云カト非也日名鳥命ハ天穗日命兒也日鷲命ハ神龜
命五世ノ孫ニテ別神タル事明シ又一説日名鳥ノ三
字ヲ合スル則ハ鷲ノ字也ト尤モ愚説評スニ不豆又或ハ
雛鳥也故ニ天鷲即天日名鳥也ト按ニ雛ハ鳥子ノ通
称ナリ雨雅曰鳥子生須其母而食謂之雛但鄙鳥又夷鳥ト

云、義欣タトヒ反令和人通ヒナトテ鷲ヲ呼テ比奈止理トスル氏
鷲字ヲシテ比奈止利ト訓ヨムベキヤ未知恐ハ皆是其本
義ヲ亂サズ唯天鷲ノ字義ヲノミ論スル臆説ト謂ヘ
シ世ヲ歷事ノ久遠ナル國中神社ノ名跡其正キモノ
カソフヘキ或ハ其処ヲ存スルモ名字變易ニテ事ノ
実考ヘカクテ牽ヒ如此
阿太賀都健御熊命神社
末常保御熊村ノ山上ニアリ其地僻岨ノ処ニ神廟ヲ
建側奇石アリ細長シテ大屋宇ノ挂梁ヲ劉テ十セ儿形
ノ如シ其救イクハク幾何ト云事ヲ知ス積テ山岳ヲ十ス因テ

挂大明神ト号ス実ニ奇異ノ絶境ナリ里ヲ御熊ト云
ハ神有テ後人迹ナシ此神故事日本紀神代卷
ニ見又三代実録ニ貞觀七年六月八日因幡国無位
阿太賀都健御熊神從五位下ヲ授玉ヲ事ニ工
大和佐美命神社
砂見庄上砂見村ニ祭クダサシ元旗指大明神是也ト云傳フ此
命傳不詳按ニ大和姓佐美ハ名今此郷ヲ砂見ト云砂
ハ音佐也是モ亦此神ノ名ヲ呼来タル地名ナラニ三
代実録曰貞觀七年六月八日授因幡国無位大和佐美
神從五下

大野見宿祢神社

野見保德尾村田野一丘深林ノ中ニアリ大野見大明

神ト称シ其社地ヲ丸山ト号ス土俗德尾ノ森ト云此

神ハ旧出雲国ノ人也垂仁天皇御宇七月秋大和国

當麻邑ニ當麻蹶速ト云ル強力ノ人有テ鉾毀角申鉤

大恒一詔衆中曰四方ニ豈我力ニ比スル者有ラニヤト

天皇聞之詔郡臣野見宿祢ヲ喚テ試令搦力互ニ蹶

タリケル力遂ニ蹶速ノ脇骨ヲ蹶折亦腰ヲ踏折キテ

殺之其勝タル賞蹶速ノ地ヲ棄テ野見宿祢ニ賜フト

紀畧是本朝相撲ノ始ニテ此故事于此千八百年ニ届

ケリ接ニ古来此里ヲ野見保ト云當初ノ領主ナルヲ

以テ祭テ神社トスルヲ三代実録ニ負觀八年十

月八日因幡国無位大野見宿祢神從五位下ヲ授ラハ

ル事見ユ

氣多郡 五座

利川神社

日置郷早牛村ノ氏神大森大明神是也ト云傳フ社前

ノ川ヲ利川ト云 祭源於菅原兒添布下流然ハ其神趾

疑十キ欵社傳云祭神瀬織津姫命木花閼耶姫命佐須

良姫尊三座也ト按ニ瀬織津姫命ハ被ノ神也其詞ニ
速川之瀬于座介瀬織底姫與云神大海原于トアレハ
川ヲ利川名ルモ被ノ詞ヨリ出タル十ルヘニ或村ヲ
早牛ト云ハ速川瀬ノ中畧速瀬ト云ヲ訛リ後世俚民
ハヤウセト云ヲ文字ニ早牛ト書タリト云其理能通
ス又神社ノ後ニ險山有テ船山ト云ニ相對スルヲ鑣山
ト云フ是モ被ノ詞ニ大津乃邊尔居大船乃畧遠
方乃繁木之本乎燒鑣乃敏鑣乎以豆打拂ト云縁語ヲ
取タル名称ト云ヘタリ然レハ上古赫々タル神社ナ
事明ナリ

幡井神社

緋見保緋見村ニアリ幡屋大明神ト称スル是ナリ又
幡ト機ト和訓同ニ今此地ヲ緋見ト云ハ機ノ縁ニ因

テ名ルモノ歟
加知彌神社 社領三十九石六斗九升三合

勝宿郷寺内村ノ祭神勝宿大明神是也古未此地ヲ勝
見谷ト号ス近隣有温泉是地名ヲ呼モノ也靈光赫々
トシテ古ニ不劣列中一二ノ大社ナリ社傳曰祭神中
殿彦火火出見尊左鸕鷀羽菅不合尊右玉依姫三座

板井神社

母木保奥沢見村ニアリ或板屋神社ト称ス

神躰方六尺餘青石ヲ齋ト云フ云リ板井ノ神号其

板ヲ知ラス按ニ板井ト云フ里他邦ニモアリ山城ノ板

井ハ下久世ニアリテ清水ノ名所也俊惠法師之哥古郷ノ板井ノ清水

當所モ旧地名ヲ呼ニヤ今土俗板井大明神ト云ハ俚

言ノ訛リ此類少カラス

志加奴神社 勝嶋社領十六石四斗五升

坂本郷宿村 在鹿奴ニ鎮座アル勝島大明神是十リト

云傳一説殿村郷鷲峰村 在鷲峰山麓南ニ祭レル鷲峰

大明神ヲ其神趾ト云恐ハ非十ラニ按ルニ鷲峯ハ山

ノ名其所ニ鎮座ノ神ナルヲ以テ鷲峰神ト称スル十

ラハ延喜式ニ志加奴神ト云ハ鹿奴ト云里有テ其地

ニ祭ル神十レハ也是上古各其地ノ名ヲ呼ノ神号ニ

テ其此別神タル事明シ今勝島ヲ以テ志加奴神社ト

云フハ此神旧鹿奴村ニ在シ故也其古地今謂鍛冶町是也天正年

中亀井氏鹿奴在城ノ時其社地山下ノ街心ニ在テ以

テ神祠ヲ比志也久目ト云フ処芦谷ノ田今ニ移ニ後

又宿村今ノ地ニ遷セリ故ニ於今鹿奴ノ土人半ハ勝

嶋ヲ以テ氏神トス東方勝島是其證明^ケ往々土俗ノ
傳ル所紛乱^シ鷹峰社又其神趾ト云フ未^レ知其^レ批^レ鷹
峯神ハ三代実録^三載之鹿奴神ハ延喜式ニ載タリ此
二書ハ六十醍醐天皇ノ勅撰ニテ共ニ其時ヲ同^クス然
ルニ一書ニハ鷹峰神トシ一書ニハ鹿奴神トスヘキ
謂^フテ是等ヲ以テモ明察スヘシ或ハ鷹峯神ハ其祭
ル所大己貴命ニテ此神別名葦原醜男^{アシハラシユラ}ナリ醜男ノ古
ノ仮名ハ加^カト通^ス又醜男ノ遠^ヲノ仮名ハ乃ト横通ス
レハ志加^{シカ}乃ト轉ス又乃ト奴^ヌト相通スレハ志加奴也
此音通ヲ以テ志加奴神社ト云ハ醜男ノ神社ト云意

力十ヘリト云フ説アレ共惟是一己ノ分別ニテ其徴
トスヘキ所^シ畢竟ハ鷹峯神ヲシテ強テ鹿奴神社
トスル好事ノ臆按ト謂ヘキニヤ

高草郡末常保内海村西ノ谷隘松林ノ中ニアリ土人
大免大明神民説記云老免誤攷按ニ白免記謬十ラシク
神書白免大明神及書アルアリ白字青知
訓スル下例セ六年中或免之宮ト称ス此神ノ故事曰事
行司白馬節會如シ

附録

式外神社

白免神社

社領二十石

高草郡末常保内海村西ノ谷隘松林ノ中ニアリ土人

大免大明神

民説記云老免誤攷按ニ白免記謬十ラシク
神書白免大明神及書アルアリ白字青知

紀古事記等載之素免神ト云是十リ是亦上ル神ノ世
ノ一奇事ト謂ヘシ神社ノ後山ヲ高尾ト云其白免ノ

故伏タルタル死ヲ伏野ト云トク或気多崎タカサキ於岐島キ等今ニ

傳テ海濱ノ名称十リ此神趾中古頽廢ニテ跡形無リ

シラ亀井當郡主ノ時故有テ再真アリニ也神代ヨリ
今ニ至テ幾千載其故事猶相傳テ泯セス是國中最
初ノ神廟ナリ崇ヘシハ幡龍氏神書說玉姫ヲ龍ト云
ニテ見ルヘシト云素兒
古事モ其類ナラニ云
賀露神社社領十九石七斗二升
右同郡南北保加露津砂漠之上ニアリ加露大明神ト
号ス三代実録曰貞觀三年十月十六日因幡國上六位
上賀露神授從五位下同十六年五月十六日授因幡國
從五位下加露神從五位上元慶二年六月廿八日授因
幡國從五位上加露神正五位下同年十一月十三日授

因幡國正五位下賀露神從四位下同年十二月十四日
授因幡國賀露神從四位上云々

白兎神社

八上郡土師郷福本村ノ川側ニアリ高草宇津見ノ白
兎社ト同神ナリ旧事古事二記ニ所謂八上姫之神廟
近縣ニ在ニ因テ又此処ニ鎮齋スト云古事記素兒ト
書リ今白ノ字ヲ書ハ仮字成ヘシカリモシ

水根神社

大成旧事本記神社本紀曰因幡國水根神社ミミハ檀原天皇
時アタノミクマリ天水分魂大神由分野持鎮座云云

按ニ八上郡散收那水根村ノ祭神十ルヘシ此地ノ山
ヲ水尾トイヒ山下ノ里ヲ水根ト云モ水分神鎮坐ア
ル縁十ルヘシ然ニ當村祭神救社アリ追付大明神
妙見大明神
実取大明神 稻荷 天王社 末
社車神 滝神等也 廿レ共其神源ヲ尋ルニ水
分魂神ヲ祭ル神廟不分明社司ニ接シテ七穿八鑿ヲ
經ル丁巳ニ十餘年ナリ時ニ社司因本道雄十ル者一
紙ノ記録ヲ送リ其記云今水根村ニ生土神三社アリ
追付神妙見神実取神中ニモ実取大明神ハ村民相傳
テ此村始ケル時ヨリノ古社ナリト云リ水根村ニ又
水根トイフ小キ名アリテ家十軒余アリ此所ニ鎮座

也地名ハ旧小ヨリ大ニ至ル習ナレハ此小名ノ水根
ヨリ始リテ後一村ノ名トナリケシ事疑ナク此地ヲ
一村ノ始十ルヘケレハ村民ノ傳モ空ニカラス又社
号ハ太カク地名ニヨリテナラセナレハ水根神社ハ此
社十ルヘキ事疑ナシ依之社頭ニ一板ヲ掛テ水根神
社ト書認ニ置又享和三年癸亥卯月四日神主道雄ト
記セリ按ルニ神武朝ヨリ至今二千五百年ニ届ト
ス時世久遠十ル如此其神趾明ナラストイヘ氏又以
テ信スヘシ今此記ヲ得テ決之役未故実ニ委ニカラ
ハ君子又コレヲ正シ玉ヘ

酒賀神社 スカ 又云須賀

法美郡大草郷 オカカヤ 今作 スカノ 萱野村ニアル萱野大明神是ナリ

酒賀須賀トモニ管ノ仮名書也社傳曰祭神ニ座左大

巳貴命石木花閔耶姫命也ト全神社ノ後ニ聳タル高

山ヲ萱山ト号ス萱神ト称スルモ其故ナリ其土地大

草 カヤ 大 カ 侯 コ 西谷ノ間ニ在テ雲霧窳冥タル深山ナリ 在大

本奥 ホ 奥 ク 十 ジウ 町 チウ 南 ナン 距 キョ 小 コ 侯 コ 神廟側社司一人住家設テ神事

ヲ執行セリ是ヲ萱野村ト号ス實ニ神宿タル絶境ナ

リ三代実録曰貞觀三年十月十六日因幡国正六位上

酒賀神授從五位下同十六年五月十一日授因幡国從

天戸間根命神社 アマノマキ

大成旧事本紀 第九 天神本紀上曰天戸間根命在稻葉莞 イナハウ

宜宮第一殿大神是ナリ云々按ルニ法美郡宇倍宮十

ルヘシ今武内宿祢靈ヲ祭テ第一殿トス天戸間根命

ハ拜殿六十余社ノ内ノ一神トス此神ハ高皇産灵尊 タカハミケスミ

ノ詔ニ因テ為防衛天降供奉玉ヲ三十二神ノ内ノ一

神ナリ委シク本書ニニ工

犬山神社 イヌヤマ

智頭郡用瀬郷宮原村ノ祭神葦原大明神是也ト云フ

古来其山ヲ犬山ト号ス是亦地名ヲ呼フノ神号ナラン

郡中一二ノ大社ニテ於今近縣古用瀬家奥屋住安藏

屋九ヶ村ノ氏神トス三代実録曰元慶三年二月八日

授因幡国正六位上犬山神從五位下神号文字救説有

テ或芦尾或葦穂ト書ス皆非ナリ其祭ル所大已貴命

也此命モ七名ヲ称ス七名倭文神社記其第四ノ名葦原醜男

日本ノ中畧ニテ葦男神ト云ハ其故ナリ或ハ土人ノ

イヘルハ此神ハ三面鬼或鬼面大王ト云鬼神ヲ齋也ト其

説ニ云山中ニ窟アリイコヤ于金屋村奥今謂于賊之窟上古三面鬼神此

窟ニ住テ国中ヲ横行ニテ人民ヲ難ナヤマニケル其時八上

姫神美女ト現シ謀テ鬼神ノ妻トナリ終ニコレヲ亡

玉リ其靈魂崇ヲナシケル故祀リテ神トスト八上姫

ノ社説モコレニ同シ按ニ曰古ニ紀亟謂大已貴命ノ

八上姫ヲ妻ニ娶王ノ其故事世ニ傳テ明也然ニ其本

紀ノ説ヲ失專ラ鬼面王ノ俗説ヲ奉テ祠官傳來ノ事

跡トスル事實ニ歎スヘシ想ニ大已貴命ノ別名醜男

ハ醜トイヘル字義ニ因テ鬼面王三面鬼トト訛言ノ

所由生乎又此命ノ大陶祇ノ女子活王依姫ヲ妻ト為

玉ノ故事ニモ粗相似タレハ彼此混淆シテ云ルニヤ

虫井神社

三代実録曰元慶七年十二月廿八日因幡国正六位上

虫井神授徒五位下云々此神迹中古以来不知其所列
内徧ク七穿八鑿ニテ數年所ヲ歷ル於茲智頭郡山形
郷大呂村ニ妙見社アリ在大呂村真四十八町其祭地以葦津谷曰葦津妙見其祭
ル所三社中殿妙見大菩薩左荒海大明神右三滝大明
神也山形郷十六ヶ村ノ氏神トス郡中ノ大社ナリ側
深谷ア虫谷ト号ス社壇之右谷隘也八上郡大疑ハ是江郷ニ通ス虫谷越是也
上世虫井谷畧語ナラシ神号其地名ヲ稱スルモノ歟
其神居ノ地山深ク谷幽ニ樹木陰森タリ花表ヨリ本
社ニ距テ八町半腸五十ヲ踏テ上ル又是ヨリ六七町
山上ニ廣キ平地アリ夷住壇トイフ今土俗曰俚民相

傳テ云上古三神夷住壇ニ降臨スト按ニ當國一宮宇
倍神社ノ宮司伊福部氏系圖ニ大己貴命ヨリ十四代
武年口命ト云アリ其時ニ當テ曰陪從纏向日代宮御
宇大足彦忍代別天皇之皇子日本武尊與吉備彦命攜
入来宿祢等相共ニ奉征徃之勅去行尔時或人自針磨
国言曰住稻葉夷住山荒海非違朝命當為征討于時日
本武尊詔曰汝武年口宿祢退行伏平耳吾平築紫自背
方將廻會于時奉詔者行荒海里人都都良麻參迎獻規
弓八枚云々此文ヲ以テ考ニ夷住山ト云ハ土俗ノ夷
住壇ト云是十九へし一社荒海大明神ハ系圖所謂荒

海ヲ祀レル十ラニ社モ亦里入都都良麻ノ二靈ヲ
齋へルニヤ當處祭神折居大明神ト号スルハ彼三社
ノ母神ト云傳レハ兄弟三人ノ垂跡十ラニ欽景行
天皇大足彦忍代御宇ヨリ於茲九千七百年上古相傳
祭神也近傍虫谷ト号スルヲ以テ虫井神ノ祀トス
他ニ求ル神趾ナシ故ニ爰ニ奉テ互見ノ便トス
鷲峰神ジエホウ社領十六石一斗八升
氣多郡殿村郷鷲峯村ニアリ鷲峯大明神ト称ス古来
其山ヲ鷲峰ト名ク国中ノ靈山也山巔ニ正学石ノ名
アリ是天空靈鷲山ヲ表尔スト云或曰事紀所謂ハ千

而覓妻モミテ下行茅渟縣ト其時此山ニ止玉ヲ因テ鷲峯ト
各ク則ハ千戈神ヲ祭テ神社トスト接ニ山下恒河板
提河ノ称アリ近縣鹿奴ハ鹿野ニ比ト云是皆此神往
天竺ノ地名也然ハ重鷲説ニ從フヘキニヤ
昔山上ニアリ桓武天皇御宇神廟ヲ御冠ノ嶽ニウ
ツス今謂古後燹火ノ爲ニ燼滅ニテ其麓ニ再真スト
社傳曰其祭ル所三座中殿大已貴命右素戔烏尊左稻
田姬末社四十神郡中一二ノ大社也三代実録云貞觀
四年九月八日授因幡国正六位上鷲峰神從五位下同
十六年五月十一日鷲峰神從五位上云云
神前神社カシサキ社領五石二斗三升
同郡勝部郷神前村ナキベ今作神ニアリ神前大明神ト称ス

社傳曰祭神猿田彦命也此神諸神ノ先魁十九ヲ以テ
神前ノ神ト号スルト然レハ神号ヲ呼里ノ名十九ヘ
シ三代実録ニ貞觀十七年三月廿九日因幡國正六位
上神前神授從五位下ト見ユ

相屋神社



斗八并

同郡同郷西青屋村ニ祭ル所相屋大明神是也社記ノ
畧ニ曰祭神青檀根尊吾屋檀根尊蓋取兩神之佳名而

得青屋邑之名ト

然ハ神社有テ後ノ地名也

上世草創ノ時ヨリシテ其称紛乱トシ崇ムヘシ三代
実録曰元慶二年十二月廿九日因幡國正六位上相尾
神授從五位下云云 按ニ屋ト尾ト字形相似タルヲ
以テ誤タル十九ヘシ此時 宣命ヲ納賜シ宮ノ蓋今ニ
傳テ當社ニアリ星霜九百年ニ届トス失火ノ災モ無
ク不思議ト謂ヘシ

